



ガレージとシフォンケーキ屋さんの間にもバイクやクルマが置かれる。珍しいアリエル・アトムやサーキット仕様のフェラーリF355から。CRM250ARや新垣さんがずっと乗り続けているという2ストベスパまで、二輪、四輪共にバラエティーに富んだマシン達が鎮座する。ちなみに「アリエルでストリートを走るのは猛烈に楽しいけれど、かなり大変(笑)」と、新垣さん語る。



** GARAGE **

ガレージ内を見ると新垣さんの遊び心と趣味の広さが分かる。目立つところに飾られているのは祭りの「ハッピ」を模したレーサースーツ。趣味で持っているダートトラックレース用のホンダFTR250も置かれていて、片隅にはダッジのエンジンが転がっている。もちろんダッジのパーツ交換などはガレージ内で行っている。

** OUTSIDE SPACE **



ガレージの外にはコンテナが置かれ、その横には新垣さんのブランドである「DRADARA (ダラダラ)」のパーツを組み込んだダッジバンがズラリと並び、他にもガッツリ手が加えられたスーブラや、アウトビアンキA112やプジョー205といった欧州コンパクトハッチバックの姿も。ダッジバンに限らず、モーター系の楽しいものならなんでもOK。そんな新垣さんのコンセプトの元、今後はジャンルを問わず様々なクルマへの展開も始めるそうだ。



DARADARA TOSHIYUKI ARAKAKI EX. WGP RIDER

TOPICS



天然素材だけのシフォンケーキ

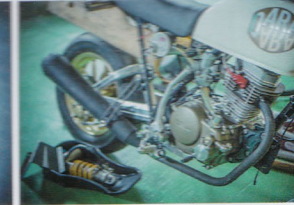
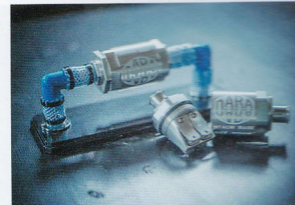
ガレージに隣接するシフォンケーキ屋さん「Kuronon」では天然素材だけで作られたシフォンケーキが人気。店内に展示されたクルマやバイクを眺めながらのティータイムが楽しめる。営業日は不定期ゆえ、下記のHPにて確認してほしいとのこと。
Kuronon kurononpan.com

この恵まれた環境を活かして新しい活動が検討されている。例えばレーシングマシンを預かって整備スペースを提供し、新垣選手に指導を受けながら練習やレースに参戦するプログラムや、ストリート派のライダーのマシンを預かり定期的にツーリングやイベントなどを行って充実したバイクライフのサポートを行うプログラムなど、色々な案が考えられているのである。

また、カスタムマシン、レーシングマシン製作のコーディネートも行う予定だ。新垣さん自身、ワークスマシンの開発をしていた経歴もある。またレースで知り合った超一流の技術も持つ職人達のコネクションもある。元GPライダー、新垣敏之がプロデュースするコンプリートマシンは素晴らしい走りを見せることだろう。

現在はガレージ自体がスタートしたばかりのため、これからの予定はすべて未知数なのだが、その可能性は無限大。ここからオートバイやクルマを楽しむ、新しいペースキャンプになることは間違いなさそうだ。

クルマ&バイク関連のパーツを積極的に開発している新垣さん。右はダッジバン用のエキマニ、つまりヘッダーを含めたフルエキゾーストシステム。GP時代のコネクションを利用して最高レベルの品質で制作している。中はリア周りを改造中のエイブ。左はクラックケースの内圧バルブ「レギュレーター」。ポンピングロスがなくなるとエンジンの効率が上がるスグレモノだ。



この立地を活かして作る新しい可能性



屋さんで、広大な敷地をもっていた。しかも幹線道路に面した恵まれた立地だったのである。

その店舗を使って天然の素材を使ったシフォンケーキ屋兼カフェがスタート。しかしあまりに広かったため、奥のスペースを新垣さんが借り受け、ガレージとしたのである。今はまだスタートしたばかりで3機のメンテナンススリフトと工具程度しか揃っていないが、これから設備はどんどん充実させていく予定。

新垣さんはバイクだけでなく、先述したようにダッジバンに関する仕事もしている。70kgも軽量化できるというカーボン製のボンネットやエンジン特性を激変させるエキマニを含めたエキゾーストシステムは新垣さんが自ら開発したもの。元GPライダーの観察眼と開発力を活かして作られたパーツを組み込んだクルマはダッジバンとは思えないほどの走りを見せるようになるという。このガレージの設備が整ったことで、ダッジバン用チューニングパーツの開発は一気に進むことになるだろう。

新垣さんは、現在も全日本選手権のJP250クラスに参戦するかわら、「虎の穴」というライディングスクールも定期的に開催しているのだが、この生徒や卒業生達がこの場所に集まってきたり一緒に整備をしたりしている。実はこの場所、ツインリンクもてぎまで40分、筑波サーキットまで約1時間、大洗サーキットまでは数分という恵まれた環境にある。更にオフを楽しめるワインディングや林道も事欠かない。